

# がん情報ラジオについて



当センターでは、がんセンターのスタッフががんに関する話題を紹介していくラジオ番組「がん情報ラジオ」をエフエムなとりにて放送しています。

放送時間は、毎週金曜日夕方5時30分から5時43分、翌日土曜日の午前9時16分から9時29分に再放送も行ってあります。

また、がん情報ラジオはYouTubeにて過去放送分もすべてご視聴いただけます。がん情報ラジオでご検索いただくか、右記のQRコードからご視聴いただけます。

QRコードを読み取りチャンネル登録をしていただくと幸いです。

4月は、循環器内科の加藤浩先生と千葉るり子看護師でお送りします。



## 外来新患診療体制表 2020年3月現在

(宮城県立がんセンター)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
血液内科		●	●		●	●
腫瘍内科		●		●		●
呼吸器内科		●	●	●	●	●
消化器内科		●	●		●	●
頭頸部内科			●	●		
緩和ケア内科			●	●		●
呼吸器外科			●	●		●
消化器外科			●			●
乳腺外科		●			●	
整形外科			●		●	
形成外科			●			●
脳神経外科		●		●		●
泌尿器科		●		●	●	
婦人科		●	●		●	
頭頸部外科		●	●		●	
放射線治療科		●	●	●	●	

診療受付時間：午前8時30分～11時00分 TEL 022-384-3151 (代) FAX 022-381-1169 (地域医療連携室)



### 交通案内

**J 桜交** 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用  
**仙南交** 名取駅西口から「県立がんセンター線」(なとりん号)を利用  
**自家用車** 名取駅西口から「北目上原線」(なとりん号)を利用  
 仙台南インターからは、国道286号バイパス経由  
 県道仙台・岩沼線を利用 (所要時間約15分)

### 地域医療連携室のご案内

地域医療機関の先生方からご紹介を受けた患者さんの診療予約をお取りしてスムーズな受診ができるようにしております。

- 受付 午前8時30分～午後5時15分
- TEL (022) 381-5152 (直通)
- (022) 384-3151 (代) 内線123
- FAX (022) 381-1169 (地域医療連携室)

**宮城県立がんセンター**  
 〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47の1  
 電話(代表) (022) 384-3151 FAX(企画総務課) (022) 381-1168

□ゴママークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表わしています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。

2020. 3 Vol.45

地方独立行政法人宮城県立病院機構

# がんセンター 便り



宮城県立がんセンター地域医療連携室

## 婦人科紹介

おおも けいこ  
 婦人科診療科長 大友 圭子

当科は2019年6月より、山田秀和(病院長)・大友圭子(診療科長)・藤田信弘・海法道子・湊敬道(レジデント)の5名のスタッフで診療を行っています。

外来は月(山田・大友)火(山田・藤田)木(大友・海法)で担当しております。2018年度の新患患者数は262人であり、仙南地区をメインに福島県や岩手県からもご紹介をいただいております。この場を借りて御礼申し上げます。水・金は手術日ですが、緊急の場合にはご連絡いただければできるだけ対応させて頂きたいと考えております。

2018年度の入院は、総数926回、患者数延べ11357人、手術217件、化学療法687件であり、いずれも前年度より増加しております。

近年婦人科がんは増加傾向であり、また治療法の選択肢が増えたことにより、1人の患者さんに行う治療は増えつつあります。進行卵巣癌を一例にすると、数回の術前化学療法を経て手術を実施します。外科や泌尿器科など他科の応援をいただく大きな手術になる場合もあり、通常その後も化学療法を行います。病状によっては2回目の手術が検討されることもあります。以前はそこで初回治療は終了となっていました。化学療法終了後のペバシズマブ維持療法やBRCA遺伝子変異陽性であればPARP阻害剤内服による維持などが行われるようになっています。また、当院はがんゲノム医療連携病院として標準治療後の患者さんのがん遺伝子パネル検査を保険診療で実施しており、対象となる患者さんを受け付けております。

手術においてはすでに他科でダビンチ手術が開始されており、当科でも導入に向けて準備をしているところです。当科は比較的手術待機が短かく、早期手術が必要な場合には可能な限り対応させて頂きまますので、ご相談ください。

当科は今年度よりJCOG婦人科腫瘍研究グループに参加し、子宮頸癌・体癌・卵巣癌の臨床試験に参加予定です。先進的な知見をもって患者さんにやさしい臨床を実施していく所存で地域の婦人科がん治療のお役に建てるよう努力してまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



向かって左より…  
 みなと たかみち おおも けいこ やまだ ひでかず かいほう みちこ ふじた のぶひろ  
 湊 敬道・大友圭子(診療科長)・山田秀和(病院長)・海法道子・藤田信弘



# 頭頸部外科紹介

頭頸部外科診療科長 浅田 行紀

## ■ 当科の概要

当センターの開設時に耳鼻いんこう科として医師2名にてスタートしましたが、現在は常勤医5名とレジデント3名で頭頸部腫瘍の診断・治療を行っています。平成25年には専門性を鑑み、「頭頸部外科」と改称されました。入院病床数は40床であり、1年の新規頭頸部癌患者数が200名弱、年間手術件数が300件弱です

## ■ 当科の特徴

頭頸部領域とは頭の底から胸部の上までの範囲です。その中には喉頭、咽頭（上・中・下）、口唇、口腔（舌、歯肉、口蓋など）、鼻腔・副鼻腔、唾液腺、甲状腺、頸部食道があり、これらが治療範囲です。この領域は摂食、嚥下、構語、味覚、嗅覚、顔貌など社会生活に非常に重要な機能を含むため、生存率の向上とともに治療後の機能温存が大切な領域です。がん治療で最高と考えられている標準治療を基本的に行い、さらに今後の標準治療を作り出すべく日々努力を重ねております。手術治療では機能温存をより図れると現在では標準治療になっている内視鏡治療を早期に導入し、進行がんには喉頭をはじめとする機能温存再建手術を積極的に行っている中心的な病院の一つです。一方、平成28年4月に新設された頭頸部内科と共同して標準的な化学放射線療法を行うことに加え、新規抗がん剤を用いる臨床試験にも数多く参加し、患者さんの治療法選択肢を広げることが可能な陣容となっています。治療内容は頭頸部領域のどの治療であっても日本トップクラスと自負しています。実際当院の治療内容が評価され日本各地からの医師が研修で当院を訪れています。

## ■ スタッフ紹介

令和2年2月現在のスタッフは浅田行紀（診療科長・頭頸部がん専門医指導医）、今井隆之（頭頸部がん専門医）、西條聡（頭頸部がん専門医）、太田淳、岸本和太の5名、レジデントは藤井慶太郎、中里瑛、中村和樹の3名です

## ■ 診療状況

外来診療日は月・火・木の3日であり、火・水・木・金は手術日となっております。また、金曜日の午後はエコー検査日となっております。治療を早期に開始するというのも当科の目標となっております。検査が終了、説明後2週程度で手術もしくは放射線治療を開始できる体制を整えております。

## ■ 診療実績

宮城県の頭頸部癌症例は東北大学と宮城県立がんセンター2施設で8割以上の症例を加療しています。外来患者数は7000人程度、入院患者数は10000人強を診療しており、宮城県では東北大学とほぼ同数の症例です。頭頸部癌を部位別にみた疾患特異的5年生存率（2008-2011）は口腔がん67.3%、下咽頭がん55.6%、中咽頭がん60.0%、喉頭がん73.2%でした。近年は治療法や抗がん剤の進歩により少しずつ治療成績の改善がみられるようになってきました。当院は中規模の病院のため、関連各科との連携がとりやすく、重複がん症例や他科の技能を必要とする治療（超選択動注療法、再建手術、内視鏡手術の一部）などもスムーズに行える全国でも数少ない施設の一つです。



向かって左より…  
後列：太田 淳・中村和樹・岸本和太・西條 聡・藤井慶太郎・中里 瑛  
前列：山崎知子（頭頸部内科）・浅田行紀（診療科長）・今井隆之

# ISO 15189 認定取得から未来へ

臨床検査技術部部長 泉澤 淳子

われわれ臨床検査技術部は、2020年1月24日付でISO 15189 認定を取得いたしました。

## ■ 「ISO 15189 臨床検査室」とは

ISO 15189は、国際標準化機構（International Organization for Standardization）が策定した臨床検査に特化した国際規格で、第三者認定機関（日本適合性認定協会）が規格に適合していることを評価し認定します。認定されるということは、臨床検査データの信頼性と、検査室組織としての能力を保証されたこととなります。

## ■ がんゲノム医療連携病院臨床検査室の使命として

がんゲノム医療推進を国策とする潮流の中で、宮城県立がんセンターは、最新・最適な全人的がん医療を提供しており、その臨床検査室として、ISO 15189認定取得が求められました。2018年7月27日のキックオフから約15か月の準備期間を経て2019年10月に受審、2020年1月 認定取得に至りました。

## ■ 認定取得への取り組み（規格が要求するQMS：Quality Management Systemの構築）

膨大な書類作成と記録の習慣化を手始めに、検査データの精度管理に加えて機材・試薬の管理、スタッフの教育・力量評価、部内外からの情報収集、不適合（要求事項を満たさない事）に対する是正処置等々を実践してきました。そして、それらを内部監査しマネジメントレビューして次のステップへ、というPDCAサイクルが機能していることを証明できるようにして審査に臨みました。

## ■ QMS導入と認定取得の効果

検査前、検査、検査後と全過程における品質管理を徹底しました。あらゆる事項、情報を記録管理することで曖昧さを排除し、課題の明確化と共有化ができるようになり、自らを評価することで、改善への方向付けがしやすくなりました。総合的には、スタッフ全員が同じ目標を目指し一体感が強まりました。また、国際標準検査管理加算（40点）を算定できます。

## ■ 未来に向けて

もちろんISO認定取得がゴールではありません。途中2回のサーベイランスを受け、4年毎の更新に向けて規格への適合を維持し継続的改善を図ります。一方、最近注目度が高まっている腫瘍循環器領域においては生理検査部門が大きく関わっておりますし、遺伝子検査の充実、がんゲノム医療センターとの連携強化等々、やるべきことはまだまだあります。当院の方針に沿うがん医療に貢献できるよう、よりよい臨床検査サービスを提供していきたいと考えております。



臨床検査技術部スタッフ  
前列左から4人目 泉澤臨床検査技術部長